

わがまちみらいマネジメント講座「つぶやきの育て方講座」 実施報告書

- 1 日 時 令和2年11月28日（土）14時～16時
- 2 開催方法及び場所 オンライン及び会場（市役所地下1階 議会第1会議室）
- 3 開催目的 地域活動のリーダー等を対象として、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の習得を目指す
- 4 テーマ 会議を運営する中で抱きやすい悩みの解決に役立つ考え方や実践的なスキル（ファシリテーション）を学ぶ
- 5 参加者 会場参加者6名、自宅等個人端末からの参加者11名、計17名
- 6 講師 畠中 智子氏（株式会社わらびの 代表取締役）

高知県生まれ、高知県在住。1992年に「高知のまちづくりを考える会」を発足後、市民誰もが参加できるスタイルとしてワークショップ手法に着目。「自由で気楽で形式張らない」を合言葉に、様々なジャンルで参加型での話し合いの場を企画しファシリテーターとしてサポート。各地で研修や講演も実施している。



7 実施内容

○ファシリテータとしての心得や手法についての解説

畠中さんの著書「つぶやきの育て方」をテキストに、ファシリテーターとしての心得や手法、畠中さんが日頃ファシリテーションを行ううえで心掛けていることなどを学びました。

・ファシリテーターに求められる心配り・配慮

①コミュニケーションを手助け

ただ会議を進行するのではなく、相手の立場に立って理解しようと心掛け、難しい言葉を簡単な言葉に言い換えたり、補足説明を促したりして、参加者全体の理解が進むように手助けをします。

②バランスに配慮

同じ人ばかりが話していないか、一言も発言できていない人がいないか気にかけるようにします。また、肩書や性別、年齢などに影響されず、発言者に対しては公平な態度で接します。ファシリテーターは、常に中立な立場でいることが求められます。

③ナビゲーション力

達成目標に向けて話し合いが進められているか意識し、脱線したり、混乱したりしたら、話を本筋に戻します。全体を俯瞰して冷静に進行する視点を併せ持つことが大切です。

・会議で使いたい小道具

① 模造紙

みんなで見て確認できるように、意見を書いたり付箋紙を貼ったりします。薄くマス目の入った模造紙が書きやすいです。

② 付箋紙

付箋に意見を書くことで、手を挙げて発言するよりも全員からもれなく意見を集めることができます。また、並び替えて分類するなど、整理がしやすくなります。

【付箋の使い方】

単語だけ書くのではなく、短くても伝わりやすいように少し具体的に書きましょう。
(名詞+動詞、名詞+形容詞など)

③ 水性マーカー

模造紙や付箋紙に書くときは、ボールペンやサインペンでは線が細く、読みづらくなります。また、水性マーカーを使うと必然的に文字が大きくなり字数が制限されるので、読みやすくなります。色は、黒、赤、青、黄色の最低4色以上用意すると良いです。



見える化することで参加者の共通理解を深めながら、話し合いを進めることができます。

○アイコン作り

ファシリテータとしての心得や手法について解説を受けた後は、伝えたいことがひと目で分かる「アイコン」を作り挑戦しました。

【アイコンづくり】

「あっ！ひらめいた」を表すアイコンと、「学校」を表すアイコンをつくってみました。



【ねらい】

アイコンという笑顔になれる仕掛けで、緊張した空気を解きほぐし、気楽に参加できる雰囲気をつくれます。

話すのが苦手な人でも、アイコンを掲げるだけで、自分の思いを全体に向けて表現できます。会議にあまり参加したことのない方などの、話すハードルが低くなります。オンライン会議の時は特に、参加者の表情が分かりにくいいため、アイコンの使用が有効です。

また、ファシリテーターが参加者のリアクションを確認しやすくなり、参加者全体の理解が得られているかなど参加者に寄り添った進行を行いやすくなります。

○旗揚げアンケート

次に、会議の中で参加者全員の思いを確認する手法として、旗揚げアンケートを行いました。

【旗揚げアンケートの進め方】

- ① 設問を提示する
- ② 選択肢を読み上げる
- ③ 一斉に旗（色用紙）を掲げてもらう

※今回は赤、青、黄色の3色の色用紙を使い、「賛成は赤」「反対は青」「どちらでもないは黄色」という設定で行いました

※今回の色に緑、白の2色をプラスして、5色の色用紙を用意できれば、「賛成は赤」「どちらかといえば賛成は黄色」「反対は青」「どちらかといえば反対は緑」「その他は白」と設定し、より賛成でも反対でもない多様な意見を引き出すことができます

- ④ 全体にそれぞれの選択肢に何人の手が挙がったか報告する（割合でもいいです）
- ⑤ 何人かに選んだ理由を尋ねるなど、参加者とやりとりをする



旗揚げアンケートは、賛否を問うときや、選択肢が決まっているときに使うことが多いです。今回は、「地域の公園に大きな木を植えることに賛成か反対か」を設問に、旗揚げアンケートを行いました。

選んだ理由を尋ねると、「落ち葉掃きなど管理が大変だから反対」「公園に木陰があったらいいから賛成」との意見がありました。やりとりをするなかで、「どちらでもない」の方から「落葉しづらい木を植えてはどうか」との声がでました。参加者の多様な意見（つぶやき）を聴くことで、新たな視点が生まれた「つぶやきが育った」瞬間でした。

○ファシリテーション・グラフィックのテクニック

ファシリテーション・グラフィックとは、意見のありようを視覚的に確認するための手法で、話し合いの現在地と行き先がひと目で確認でき、参加者の共通理解が進みます。

畠中さんが模造紙を使って、マーカーで実際に書いて見せながら、意見の書き方の型を2パターン教わりました。

1. 整理箱型

事前に話し合いたい要素ごとに箱（マス）を書き、要素を提示する方法です。お祭りの実施に向けた話し合いであれば、話し合いたい要素として、開催日時・会場・対象者・スタッフ・出し物などが考えられます。

【いいところ】

- ・議論し忘れを防止できる
- ・要素ごとに深い話し合いができる
- ・次回の会議冒頭に、参加者みんなで前回の内容を振り返りやすい

○月○日○時～
参加者:○○.○○.○○

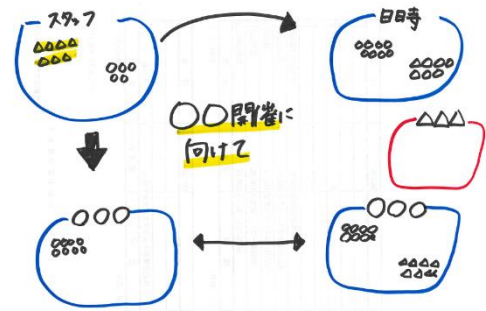
○○ 開催に向けて	
目的	スタッフ
日時	会場
予算	その他

2. 似た者集め型

意見を同じような要素ごとにまとめて、似た者同士のグループとして囲って表示する方法です。

【いいところ】

- ・ 枠の大きさから、どの要素に参加者が関心をもっているかわかりやすい。



○質問タイム

講座の最後には、参加者からの質問へ講師の畠中さんに答えてもらいました。

【出た質問と畠中さんの答えを一部ご紹介！】

- 意見が出やすくなる殺し文句は？
→言葉で促すのではなく、最小限の単位から意見を引き出す。
※2人組をつくり、一対一で話し合い、相手の意見を全体に紹介してもらう。
「私の意見ではなく、〇〇さんの意見」というワンクッションを入れることで意見が出やすくなる。
- 他人事を自分事にさせるには？
→身近なテーマで始める。自分事のテーマから発展させる。
※例えば、「子どもの朝ご飯問題」がテーマなら、「うちの子の今日の朝ご飯何だった？」という身近なテーマから話し合いを始め、「子どもの朝ご飯問題」へ繋げていく。
- 昔の会議スタイル（口の字型）しか認めないグループのなかにワークショップ形式を持ち込むには？
→女性や子どもなど多様な人の集まりに変える。
※会議に慣れていない子ども達などに合わせた会議スタイルとして、ワークショップ形式（グループ形式）を提案する。今までの会議スタイルを否定するのではなく、イベントチックに提案していく。

8 アンケート結果

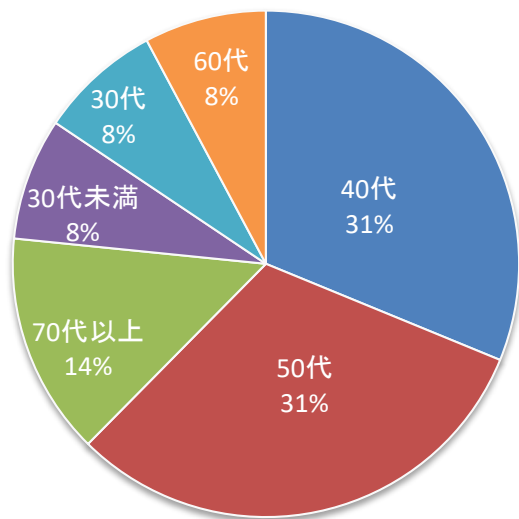
別紙「アンケート結果」参照

わがまちみらいマネジメント講座

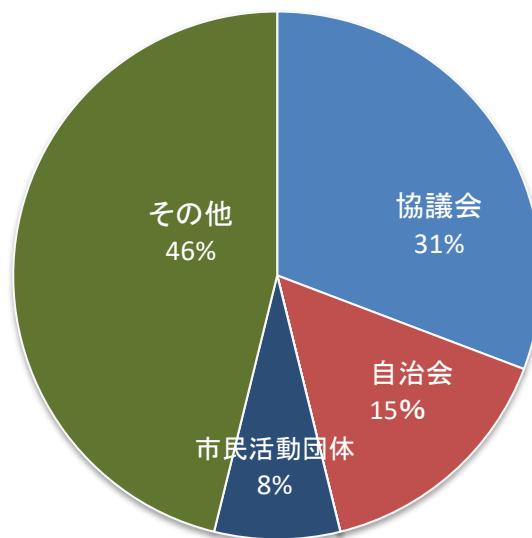
令和2年11月28日開催「つぶやきの育て方講座」アンケート結果

回答者13人（参加者17人）

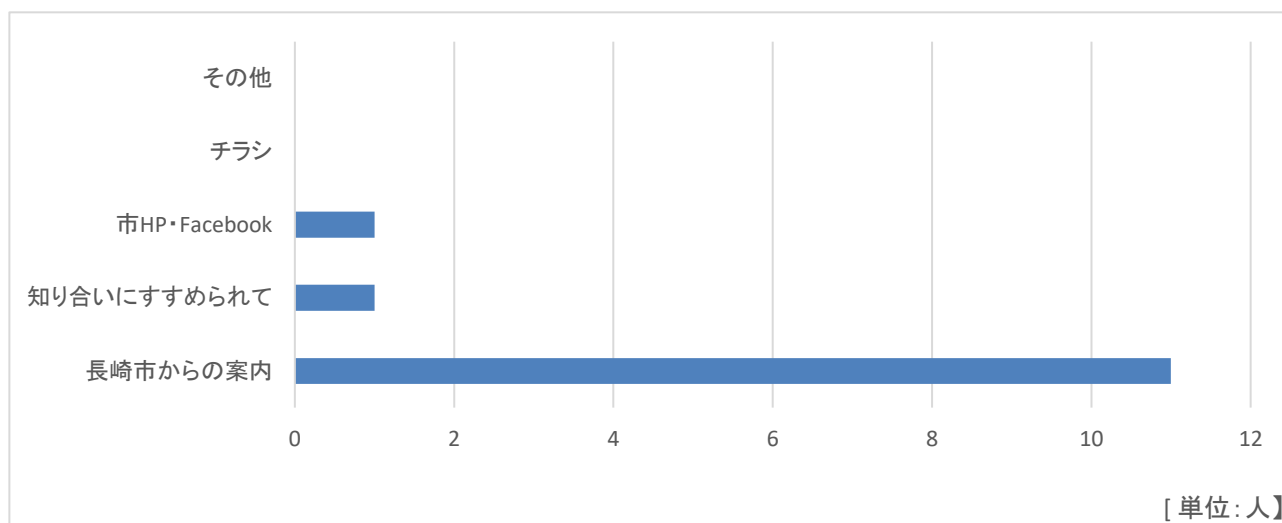
参加者 年代比率



参加者 団体比率

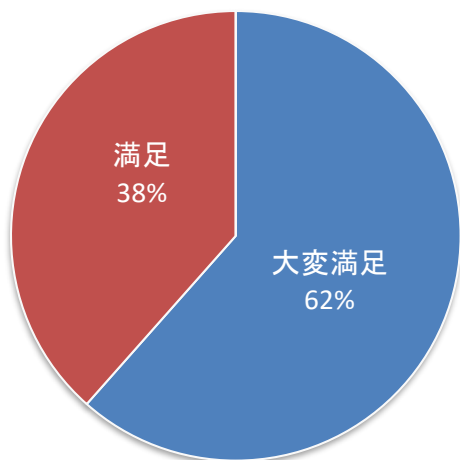


1 本日はどのようなきっかけでご来場されましたか？（複数回答可）

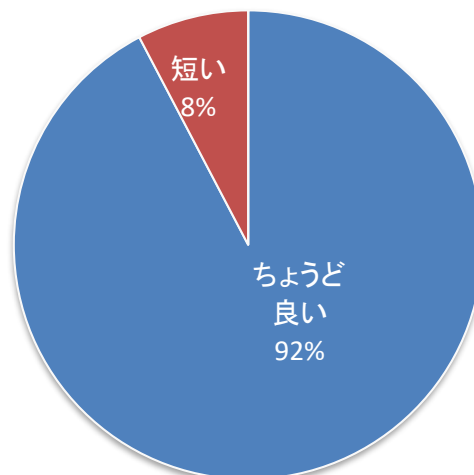


2 本日の講座の評価について、当てはまるものを選んでください。

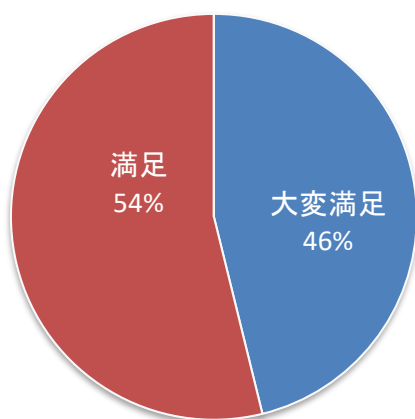
(1) 講座内容について



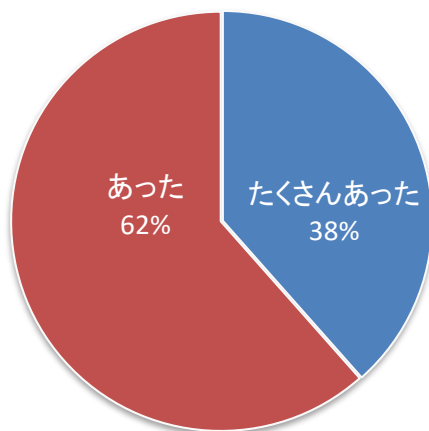
(2) 時間配分について



(3) 全体的に



3 新たな発見や活動の参考になることはありましたか？



3 新たな発見や活動の参考になったこと（自由記述）

内容
色の使い方。全然みやすさ、伝わりやすさがちがってくる。書き方。意見が出やすくなるテクニクのなの。
多様な意見を求めるにあたっての進め方を学びました。
グループワーク参加者からの意見を出しやすくする方法。
人の意見の引き出し方(方法)が参考になった。
QAで、皆同じようななやみがあり、今後実行していきたいと思いました。
「旗あげアンケート」、「整理箱型」など、活発に会議ができそうな方法を知ることができた。
グループワークでの意見の引き出し方の導入にまずは2人1組で会話してもらおう等
ワークショップはPTAで何度か参加したことはありましたが、今後主催者側としてかかわる際の進め方、声の拾い方のポイントがわかりました。普通の会議もワークショップ形式に変えてできるのはいい意味で想定外でした。
話し合いの技法(旗あげアンケートの有効性)
整理箱など、意見を出させるための仕掛け、具体的な誘導など、とても参考になりました。
会議での書記や発表者の決め方が参考になった。
畠中さんの進行の仕方やアイスブレイキングなども大変参考になりました。カードを使って、力関係にも配慮しながら発言しにくい人にも発言しやすくする工夫も勉強になりました。

4 今後学んでみたいこと（自由記述）

内容
重いテーマを解決に導く手法を学びたいです。
今回のようなファシリテーターの手法学んでいきたい。
まちづくりはいろんな人をいかにして参加させることが大切であることがいづらかわかった。
プレゼンテーションツールの紹介と使い方
自治会員を増やす方法、自治会や地域コミュニティ連絡協議会など地域活動の役員を引き受けてくれる人を増やす方法を学びたい。
失敗事例。失敗から学ぶことはたくさんあるから。
できるだけたくさんの方に参加してもらえるようにする秘訣。情報発信の方法など。
巻き込む力
講座の内容も良かったのですが、オンライン講座という手法も良かったと思います。オンライン講座は初参加だったのですが、事前に送付された参加の手引きも分かりやすく、当日13:30からの操作説明もありがたかったです。冒頭少しグダグダしていたようですが、会場とオンライン両方は難しいように思いました。オンラインでの受講は“密”も移動時間等も考える必要がなく、機器のトラブルもなく、予想より快適でした。講師に受講者の反応は見えなかったと思っていましたが、アイコンやチャット、画面で細かく見て下さっていて、従来の会場での受講と変わらない気がしました。たまに名前を呼んで反応してくださる分、それ以上かもしれません。また、会場では質問できなくても、チャットなら聞きやすいとも感じました。みんなが気軽に参加できる位に浸透することを期待します。ありがとうございました。
継続でき成長していく組織の運営のしかた
話し合いの場へどう引き込んでいくか、意欲が低い方々の参加率をどう上げていくかの手法もあれば学びたいです。

5 その他、ご意見・ご要望、感想など（自由記述）

内容
オンライン全然ありだなと思いました。わかりやすかったです。
オンライン受講ができない人が気軽に参加できるようにしてほしいです。
楽しい研修でわかりやすかったです。
非常によかった。今後も時期をみて行ってほしい。
地コミ協議会設立団体メンバー向けに啓発のための講座を多く。事例とか必要な能力向上手段の紹介とか。
職員だけで参加したが、地域の人にも声をかければ良かったと思いました。
<p>自宅からリモートにて参加しました。</p> <p>良かった所:会場にいけないので、移動時間がなく拘束される時間が講座開催時間のみ、移動費なし。新型コロナ感染防止になる。講座の開催と参加にあたり、距離と参加人数に制限がなくなること。</p> <p>良くない(残念な)所:チャットによる発言は良いが、マイクを通したディスカッションは難しい。他の参加者と話ができない。環境によっては音声聞き取りづらい・雑音が入る。参加者全員の環境や操作スキルを揃えることが難しい。</p>
アンケートの回収方法が個人を特定できると意見を記入しづらい場合があるので、リモート研修後のアンケート用紙は返信用封筒を送付する等アンケートを記入する側の配慮を今後はお願いいたします。
<p>はじめてオンラインで参加しました。自宅で参加できるのは移動もなくてよかったです。みんなでマイクがみんな使えないのは、少し残念でしたが、アイコンを使ってというのも十分楽しめました。小さいお子さんがいるご家庭なども、オンラインなら参加しやすいし、昨今のコロナ禍と、インフルエンザなどの流行防止などの観点からも、これからどんどん、増えていくといいなと思います。</p> <p>今回スマホからの参加でしたが、できれば、パソコンからが操作しやすかったなど、個人の反省です。</p> <p>地域コミュニティのみなさま、準備等々、ありがとうございました。</p>
参加者が誰なのか分からなかった。名簿などを載せるなりしてほしい。チェックインで自己紹介があってもよかったと思う。
最後のほうで通信エラーが出ました。全体的に回線の遅さを感じました。オンラインも一般的な集まりも来れない人や来ない人がいるので郵便での配布・回収などで意見が集まらないかなーと思います。
テキストの冊子をぜひ購入させていただきたいです。